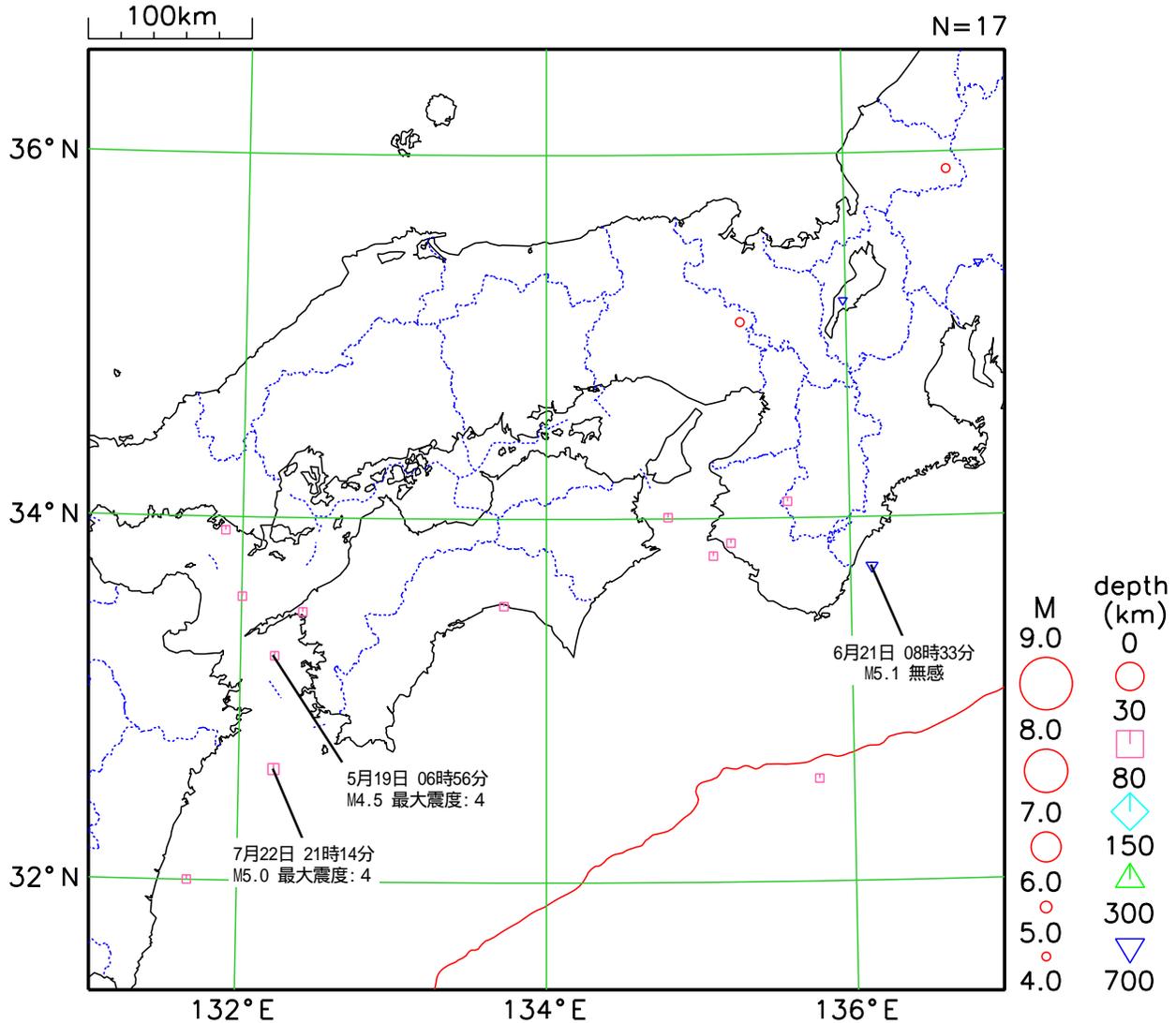


大阪管区气象台 管内地震活動図

2023 01 01 00:00 -- 2023 12 31 24:00



概況

図中の吹き出しは管内で震度4以上を観測した地震またはM5.0以上の地震に付加

2023年に上図の範囲内で発生したM4.0以上の地震は17回（2022年31回、2021年25回、2020年19回）でした。
2023年に管内で震度1以上を観測した地震は163回（2022年220回、2021年240回、2020年160回）、このうち震度4以上を観測した地震は2回（2022年5回、2021年9回、2020年2回）でした。

2023年の主な地震活動は次のとおりです。

5月19日06時56分に豊後水道の深さ46kmでM4.5の地震が発生し、愛媛県伊方町で震度4を観測したほか、中国・四国地方及び九州地方で震度3～1を観測しました。

7月22日21時14分に日向灘の深さ37kmでM5.0の地震が発生し、高知県宿毛市及び大分県佐伯市で震度4を観測したほか、中国・四国地方及び九州地方で震度3～1を観測しました。

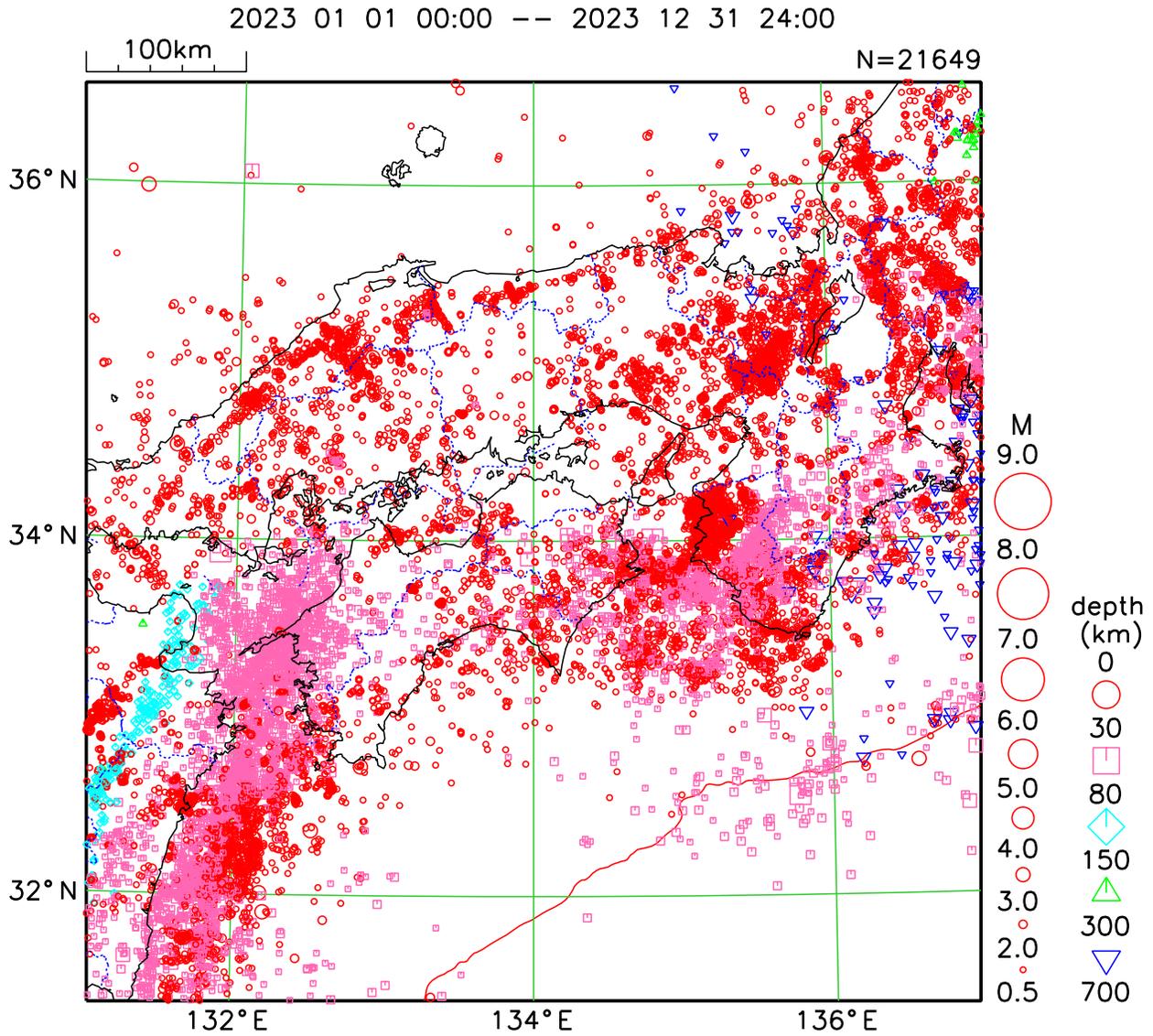
10月2日から9日にかけて、鳥島近海（鳥島の南西約100km、上図範囲外）で、M6.0以上の地震が4回発生するなど地震活動が活発になりました。このうち10月9日04時頃から06時台にかけては、規模が小さいうえに地震波のP相及びS相が不明瞭で震源が決まらないものを含めて地震が多発しました。この活動に伴って全国各地で津波を観測しました。管内では、土佐清水で34cmの津波を観測するなど、和歌山県から愛媛県の太平洋沿岸にかけて津波を観測しました。

12月2日23時37分にフィリピン諸島、ミンダナオの深さ40kmでMw7.5の地震（Mwは気象庁によるモーメント・マグニチュード）が発生した。この地震により、伊豆諸島の八丈島八重根で最大0.4mの津波を観測したほか、宮城県から沖縄県にかけて津波を観測した。管内では、和歌山県・徳島県・高知県・大阪府の沿岸で最大17cm程度の津波を観測した。

本資料の震源要素及び震源データは、再調査されたあと修正されることがあります。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

大阪管区気象台 管内地震活動図

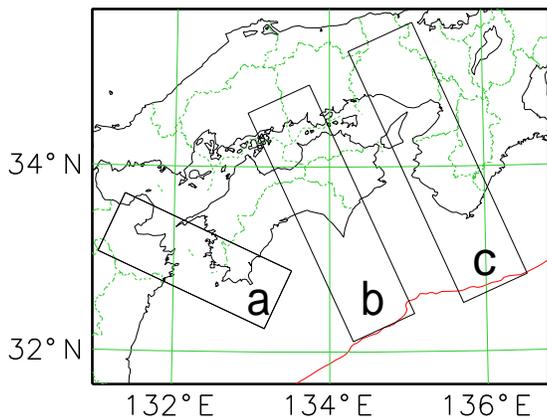


概況

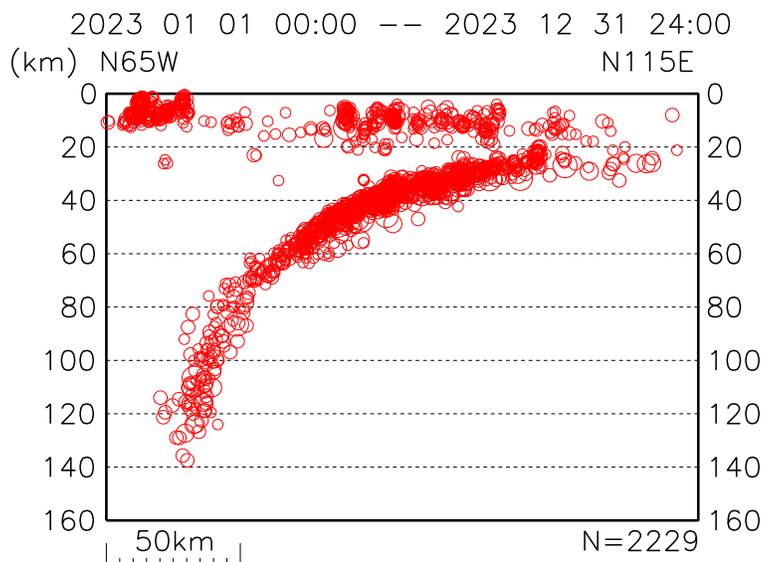
上図の範囲内で、2023年に震源が決定された地震のうち、M0.5以上の地震は21,649回(2022年は28,399回)でした。

管内地震活動図(断面図)

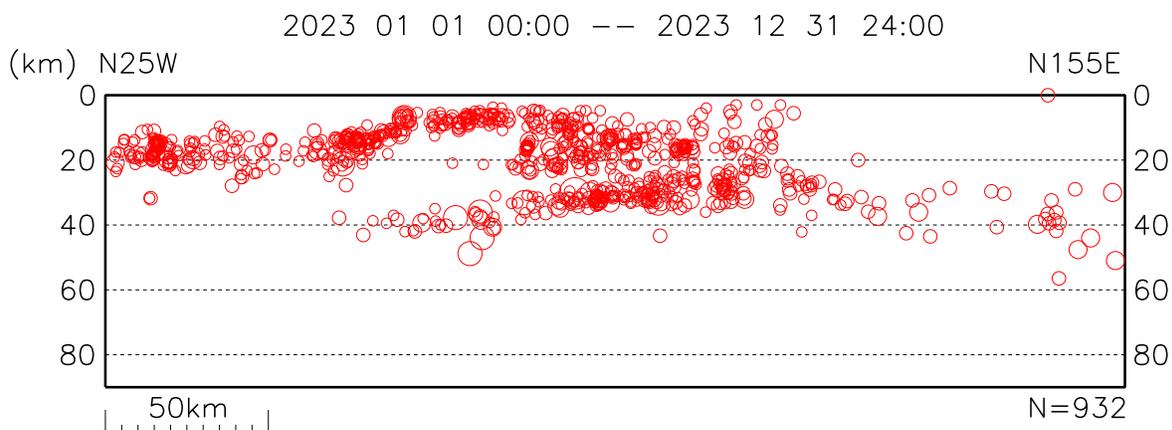
領域図



a. 豊後水道



b. 瀬戸内海中部～四国沖



c. 兵庫～和歌山南方沖

